



おすすめの一冊

山崎茂雄

『映画を観ているみたいに小説が読める 超簡単！イメージ読書術』

おすすめの一冊への寄稿依頼をいただき、「さあどうしよう」と迷いに迷いましたが、この一冊を選ばせていただきました。

正直なところ私は読書家ではなく、専門領域の論文や報告書、通達に目を通す以外は、読み物としては実用書を読むくらいで、作り物、虚構の小説はあまり面白いとは思いませんでした。この本も実用書と言えるでしょう。しかし、読んでみると目からうろこでした。

小説を読むにあたって、ただただ読み進めるのではなく、一つのまとまりでちょっと読みやめ、風景、景色、人物の表情、心情などを想像するのです。著者はカットイメージと呼んでいます。映画やアニメのように、小説の区切り区切りで画像を想像するのです。どんな読み飛ばすのではなく、いったん立ち止まり、読みやめてイメージします。よくわかりませんが、どんどん読み飛ば



映画を観ているみたいに小説が読める
超簡単！イメージ読書術
山崎茂雄著
発行／みらいパブリッシング
発売／星雲社

ばしている時とは違う脳の部分を、立ち止まりイメージしている時には使っているように感じます。左脳から右脳に情報が行ったり来たりして、臨場感を持つたり共感したりするのでしょうか。ただただ読み飛ばすより、一旦立ち止まりますので少し時間がかかりますが、おいしい料理をいただく時に似て、ただただ食べるのではなく味わいなが

ら食べる（読む）のです。そうすることで小説の中により入り込みやすくなり、風景、情景、表情などをイメージしやすくなり、共感したり感情移入したりしながら、より深く読むことができます。作家の創作、構成の巧みさ、工夫などまで感じ取ることもできるかもしれません。読みのレベルが格段に変わってくるように思

ます。

学生の頃に読んだ、つまり50年も前に読んだ夏目漱石の『こころ』、司馬遼太郎の『項羽と劉邦』、新型コロナウイルス感染症が急速に拡大した頃に読んだアルベールカミュの『ペスト』など、このカットイメージをしながら読み返してみると、また随分と新鮮に臨場感を持って読むことができると感じました。既読書を本棚から取り出してこのカットイメージを頭に浮かべ、感じながら、思いながら再読してみることがおすすめです。

この本のネタバレのようになってしまうかもしれませんが、詳しくはこの本を読んでやり方をよく理解されてから小説をお読みになればよいのですが、大半の方は、ちょっとこのことを取り入れて、意識してイメージしながら読めば随分と違う読書が楽しめるのだと思います、おすすめの1冊とさせていただきます。

松本 和紀

まつもと かずのり

1979年東京慈恵会医科大学卒業、1983年同大学院博士課程終了。東京産婦人科医学会会長、日本産婦人科医会代議員総会議長、東京都医師会母体保護法指定医師審査委員会委員長、医事紛争処理委員会委員、公衆衛生委員会委員、愛慈会松本レディースIVFクリニック名誉院長。